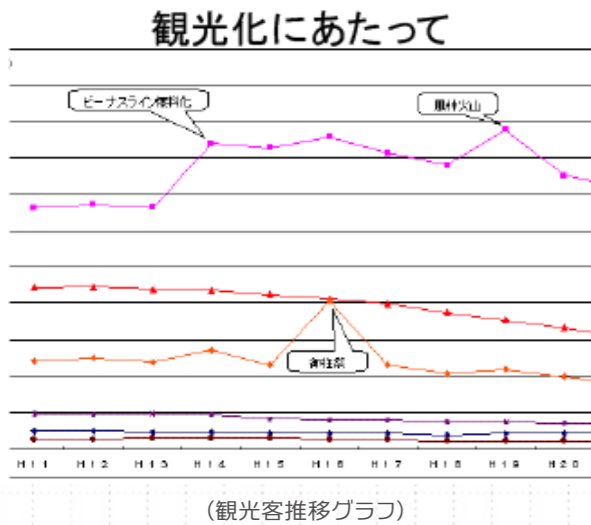


わがB5の社名は「MS だんごP」です。この由来は、M o t t o ・ S u w a 圏を・だんごのように一体化した・P r o j e c t を目指す、というアルファベット及び、団子からこのような社名になりました。

わが社は「諏訪の力を生かしたナイスなお土産をプロデュースせよ」という課題に対し、「“お土産”を持ち帰ってもらい、また来たいと思ってもらうもの、それは心に残るもの→すなわち“感動”」という捉え方をしました。諏訪に来て諏訪の良さを知ってほしい、すぐに帰らずもう少し諏訪圏を回ってほしい!という観点から諏訪圏を観光地化し「諏訪にまた来たいな」と思ってもらえる感動が、わが社の考えるお土産になります。



このグラフは観光客の推移を表しており、上から諏訪・茅野・下諏訪・富士見・岡谷・原村となっています。イベントの年には集客するものの、トータルで減少傾向であることが分かります。要因はいくつもあると思われませんが、「諏訪圏の一体化の欠如」の問題に着目しました。

### 商圈の市町村別地元滞留率 (2009年)

	岡谷市	諏訪市	茅野市	下諏訪町	富士見町	原村
地元滞留率	66.5%	69.0%	71.7%	33.3%	41.7%	5.0%
主な流出先	諏訪市 松本市	茅野市	諏訪市	岡谷市 諏訪市	諏訪市 茅野市	茅野市 諏訪市

長野県商圏調査報告書」より  
 (地元滞留率表)

この表は市町村別の地元滞留率です。各市町村から各市町村に人が流出しているかを表しています。偏って人が滞留・流出していることが読み取れます。私たちは諏訪圏の観光客の減少傾向の原因は、諏訪圏の観光が、各市町村ごとの縦割りシステムであると考えました。連携することがあまりなく、観光パンフレットも各市町村の案内や宣伝は行っているが、合同の宣伝は行っておらず、観光客にしてみれば全く親切ではない、わかりにくいシステムになってしまっているのです。

### たてわりシステムの打開策 そこでこのシステムを打開するための策として 私たちが考えた答えは **「SL諏訪湖周回案」**です！



そこでこの“縦割りシステム”を打開するための策が「SL 諏訪湖周回案」です。

これには四つの魅力があります。まず、SLの周回によって、諏訪・下諏訪・岡谷が必然的に連携することができ、将来的に交通の足にもなりえます。次に、国鉄時代の中央線でSLが走行していた背景があること、明治30年～40年頃まで、茅野にある諏訪鉱山の鉱物を運ぶのにも活躍していた背景があり、SLに乗ってもらうことで歴史に触れるきっかけになりえます。そして、「諏訪湖でSL!?’という絶大なインパクトを与えることができ、地元をはじめ、県外からの集客が期待できます。最後に、諏訪湖、山々などの四季の顔や、古き良きSLの組み合わせにより視覚・聴覚を最大限利用し、諏訪の良さをより一層引き立てることが可能になります。

### 各駅での聞き込み調査によると

SLが観光に使えると思うか？

- ・地元民60代女性2人組 上諏訪駅
- ・「展示SLを撮りに来る人が多いから実物ならもっと人が来るだろう。」
- ・OL40代女性 上諏訪駅
- ・「SLは山の中のイメージがある。イベントがあれば乗ってみたい。」
- ・三重県からの観光客男性4人組 下諏訪駅周辺
- ・「神社を見るために諏訪に来て、SLがあれば泊まっていくかもね。」
- ・地元民60代男性 岡谷駅
- ・「ホテル・水上バスに合わせて乗りたがる人がいるのではないかと」
- ・下諏訪駅前の商店30代女性
- ・「観光になると思う。諏訪湖の景観マッチがいい。発想もいい。」
- ・学生10代 辰野町出身男性 岡谷駅
- ・「諏訪大社くらいしか知らなかった。SLは新しい観光の目玉になると思う。」
- ・タクシーの運転手50代男性 岡谷駅
- ・「SLが走るなら孫と行きたい。子供が喜びそう。」

また、SLの計画を立てる上で諏訪周辺にて「SLが観光にいい影響を与えるか」という調査を実施しました。その中では諏訪をアピールできるのではないかと意見が多くありました。

まず実際にSLを走らせるにあたって弊害となるのがそのコストですが、比較的安価と言われるイギリスから輸入するとしても1両あたり4～5億円もかかってしまいます。さらに諏訪湖周辺の地盤補強も必要になり、人を乗せて走った場合、運送業になるために細かい法令を踏まえる必要も発生し、いきなり実施するとすれば無理難題になってしまいます。

そのため、わが社では将来的なビジョンとして「諏訪湖の周りをSLが走行し、観光客増大による地域活性化」をゴールに設定し、その第一段階としてわが社では「ミニSL」をチョイスしました。これにより重量カットで地盤問題を解決し、コストも削減できます。

企画するためにあたり、まずSLを多くの人に知ってもらうため、試験的にミニSLイベントを実施し、将来的展望として大型を設置するという構想を立てました。具体案として、諏訪圏工業メッセ(来場者25,000人を超えるイベント)に諏訪の貴重な技術力としてPR出展することを考えました。ここでSLに対して、興味・関心を持ってもらうことが最初の目的になります。

また、実際にSLを走らせるため、その製造が可能な企業を諏訪中で探し回りました。その結果、下諏訪の「有限会社・進工機械製作所」という企業でSLの製造が可能だとわかりました。なお、小型のSLも存在しました。そこで、工業メッセへの出展が可能か否かお伺いしたところ、メッセ本体は難しいそうですが、同イベント内のデモンストレーションで諏訪理科大生が企画したものとして、ミニSL走行・展示を行うことは可能との回答が得られ、企業さんの協力のもと、早くも実施に向かっていきます。

諏訪圏工業メッセでSLに興味・関心を持ってもらったあとは、赤砂岬で試験的に小型SLを設置し小規模のイベントを行います。

### 次に試験的に小型を設置(赤砂岬)

SLに興味や関心を持ってもらった後、赤砂岬で小規模のイベントを行います。



そのイベントを通して、小型のSLで子供たちに楽しんでもらい、その敷地内に諏訪圏の名産物の屋台を展開することによ

て、SL以外にも諏訪圏の魅力を知ってもらえるきっかけにすることが目的となります。

また、大人や家族連れにも楽しんでもらえるように、BBQの施設を設けることを予定しています。さらに、進工さんの小型SLを使わせていただくことが可能なので制作費は実質0円で済みます。

#### 小型SLを用意するとしたら・・・

- ・ボイラー以外の部品は**2～3万円**
- ・ボイラーはイギリスに発注したとして**50万円**
- ・加工の件費**数100万円**。
- ・トータルで**300万円**

このくらいかかってしまうそうです・・・

※ボイラー：燃料を燃焼させて得た熱を水に伝え、水蒸気や温水(湯)に換える仕組みをもつ装置5.6kmの圧力ならその三倍の耐圧試験をする。つまりちょっとでもロウ付けの隙間があるとだめ。→作るのが大変。



しかし、実際に赤砂岬へ行ってみたところ、赤砂岬が予想以上にボコボコしていて線路を敷くことができず、SLを走らせることができない。という問題点が浮上しました。この打開策として、有限会社・城南ガーデンさんによる地ならしができることが分かりました。

次に赤砂岬イベントに必要な道具に関してですが、下諏訪町役場が屋台セットを所持し、1日1,000円でレンタルが可能で、綿半レンタル諏訪店からもBBQに必要な物品がレンタル可能でした。そして、そのイベントに出店可能な名産品店を調べてみたところ、H24年7月7日時点で原田商店、ヤマヨ食品工業、などから許可を得ることができました。また、イベントでは避けては通れないゴミ問題ですが、赤砂岬の「生ゴミ減容リサイクルセンター」で肥料にリサイクルできることが分かりました。すなわち環境にも配慮したイベントにすることができるのです。